

窪田委員（自民会議）

平成 27 年 3 月 5 日  
教育長 答 弁 実 録  
（ 教 育 委 員 会 ）

（問） 県立高校の入学試験について

教育委員会では、今年度、「広島版『学びの変革』アクション・プラン」を策定し、知識ベースの学びから、主体的な学びという、これからの新しい教育の方向性を示したところである。

県立広島中・高等学校は、中学校の入学選抜において、基礎学力だけでなく自分で考えて表現する力を問う問題を出題するなど、入試の段階から、どのような人材を求め、育成しようとしているのか一貫した姿勢が感じられる。

しかし、県立高校の入学試験では、選抜Ⅰにおいて面接や小論文を実施しているものの、選抜Ⅱなどでは、学力検査など知識重視の内容となっているのではないかと思っている。

高校入試の内容についても、今後の教育の方向性に合わせて変えていかなければならないと考えるが、教育長の所見を伺う。

（答）

主体的な学びを重視したこれからの教育を実現させていくためには、入学選抜における学力検査につきましても、知識を問う問題だけではなく、複数の知識を総合的に活用する力を適切に評価できるような問題を積極的に取り入れる必要があると考えております。

選抜（Ⅱ）におきましては、一部の県立高校において、発展的な内容や思考力を必要とする自校作成問題による学力検査を実施しているところでございます。

教育委員会といたしましては、中学生が身に付けた資質・能力をはじめ、本人の意欲や多様な学習成果等を適切に評価する学力検査の在り方について、引き続き検討してまいります。